

# 支援を組み立てるための基本 I

行動の機能に着目した支援の組み立て

社会福祉法人 正夢の会

パサージュいなぎ

支援ディレクター 堀内 太郎

# この時間で学びたいこと

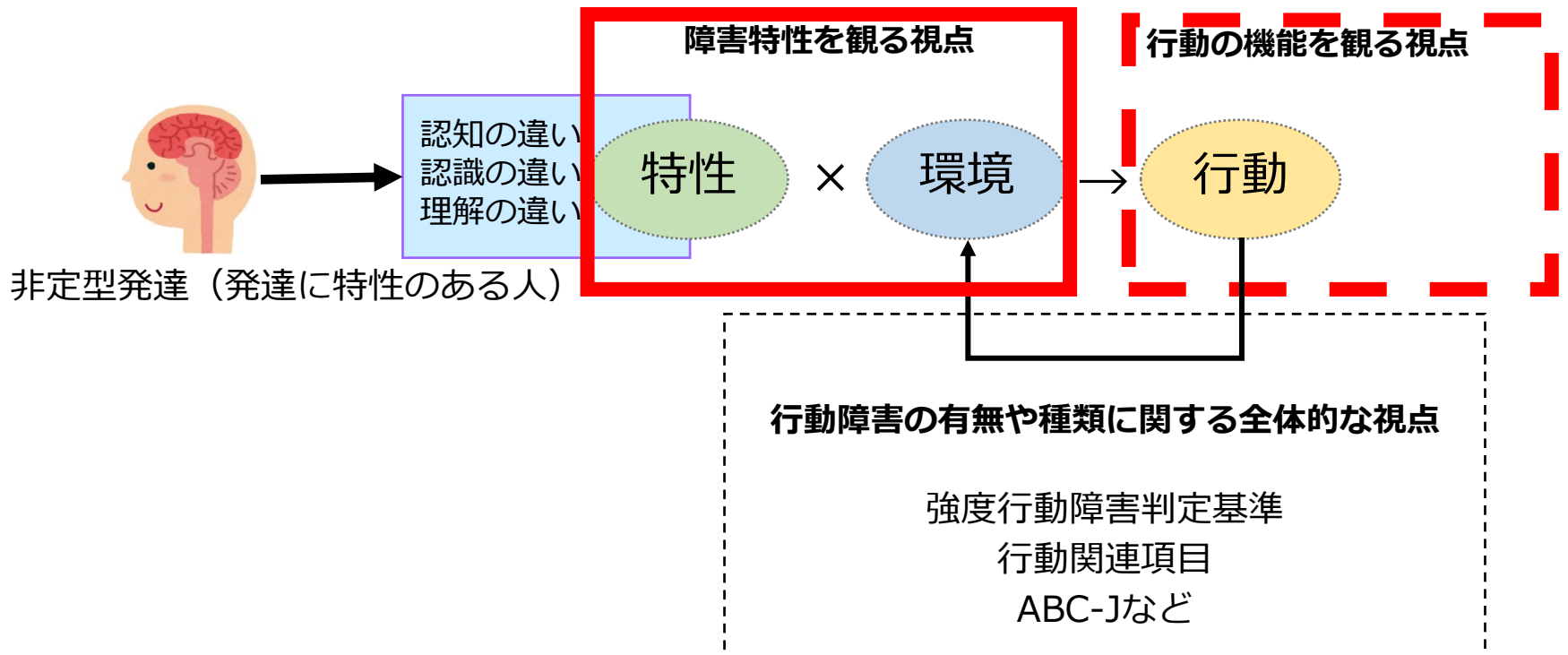
- この時間では、基礎研修で学んだ予防的な支援（特性把握→冰山モデル→構造化）だけでは、行動の改善が難しいケースについての支援の組み立て方を紹介します。
- これまでは、強度行動障害が現れる要因を障害特性と環境の相互作用に注目して支援を組み立てることを学んできました。この講義では、もう一步踏み込んで行動そのものの中にある、行動の機能に注目する考え方を紹介します。
- 内容的には難易度が高い内容であり、実践する前に専門的な研修の受講と日々の記録，アセスメント技術が必要です。当講義の内容は、上記の通り時間と労力を要した上で、事例検討等で活用して初めて効果が出る事を予めご了承ください。

# 基本は「予防的支援」

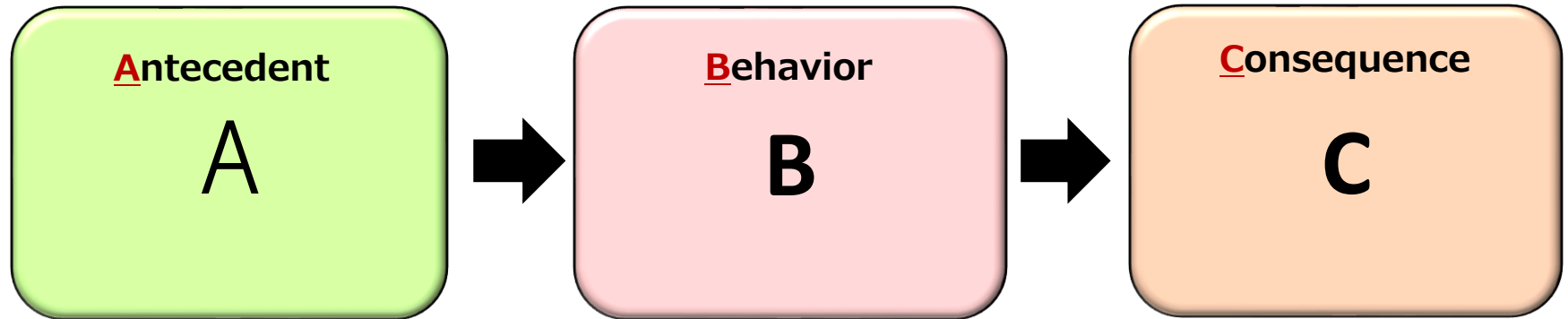
- 強度行動障害に苦しんでいる方の苦手としている事に配慮をし、得意なことは生活の中で活用する事が支援の基本なので、強みと弱みを把握するという意味でも障害特性の把握は必要です。
- 特性を把握し、苦手なことに対する合理的配慮が構造化という事になります。
- これらの基本的な支援は、予防的な支援と考えることができます。
- しかし、予防的な支援だけで、すべての強度行動障害が改善されるわけではありません。

# 行動の機能を見る視点

行動そのものにどのような機能（メッセージ）が隠されているのかを探る方法が有効な場合もあります。



# 「ABC」機能分析モデル



**先行刺激**  
(環境・きっかけ)

**行動**  
(働きかけ)

**結果**  
(反応・変化)

結果により「行動の増加」や  
「行動の減少」が起きる  
⇒ 「行動随伴性」

# 行動の増加と行動の減少（強化と弱化）

👉 行動の法則を理解する

👉 強化

以後の行動が増える

C 行動の結果

サービスが良く、料理もおいしかった

A きっかけ

お腹が空いた

B 行動

レストランに行く

C 行動の結果

サービスが悪く、料理もおいしくなかった

以後の行動が減る

👉 弱化

# i) 機能から行動の意味を推察する

## なぜ、その行動を起こすのか？ ①

課題となっている行動の裏には、コミュニケーションとしてのメッセージが隠れている

強度行動障害のある方への支援中では、時には課題となる行動に対して戸惑いを感じる 경우가多くあります。私たち支援員からすれば、怪我のリスクもある、「困った人」というイメージを抱きやすい状態です。

しかし、強度行動障害のある方の課題となっている行動には、裏にコミュニケーションとしてのメッセージが隠されていることが多くあります。強度行動障害のある方は、その障害特性とこれまで歩んできた環境と合わさって、本人独特の表現方法（課題となっている行動）に頼らざるを得ない状況にいます。そういった視点で見れば、実は「困っている人」だということが見えてきます。

# なぜ、その行動を起こすのか？ ②

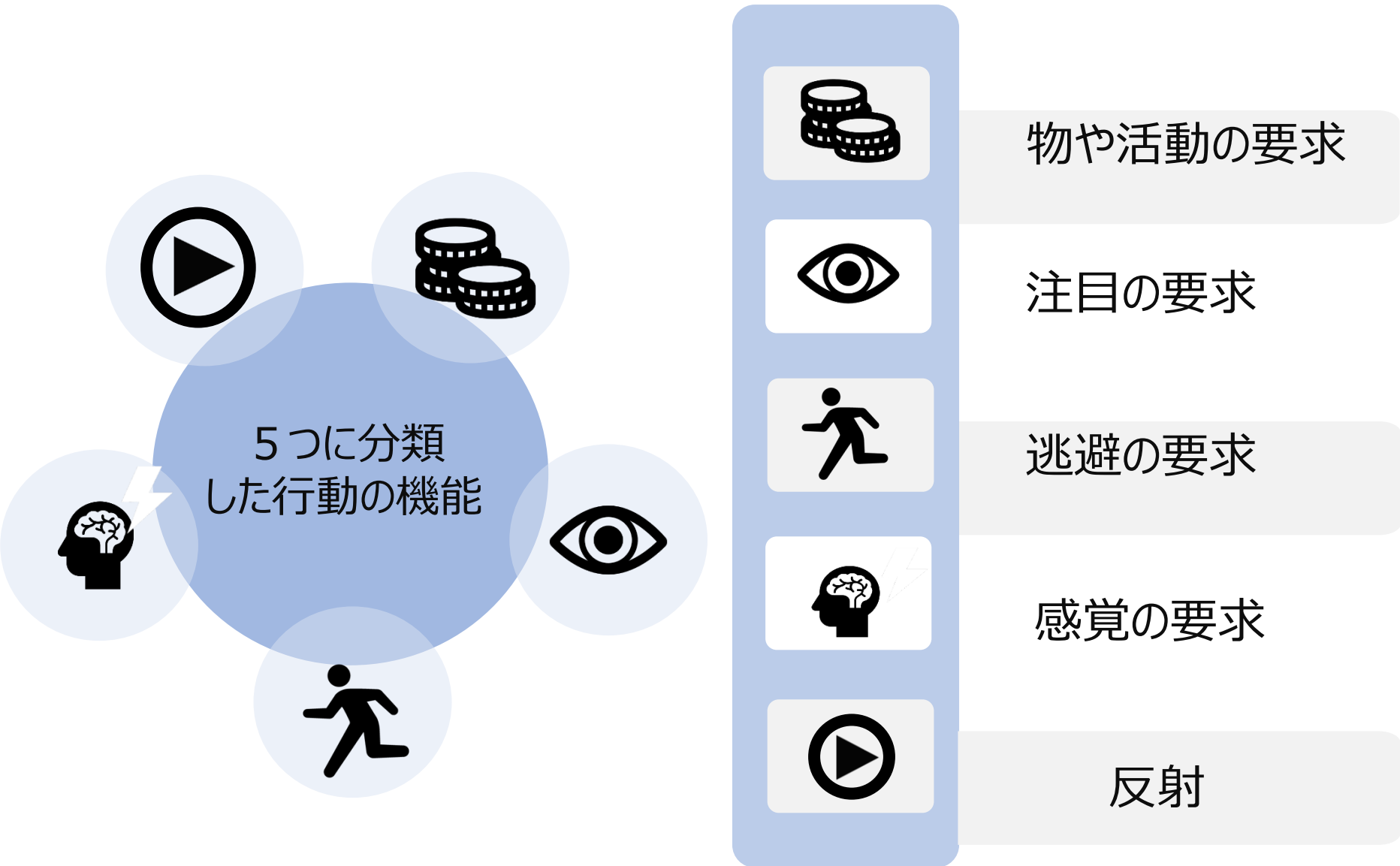
課題となる行動には5つの機能があり、5つのどれかによって強化されている

応用行動分析学では、行動には5つの機能があるとしています。強度行動障害のある方は、それぞれの表現方法により、5つの機能を人に伝えようとしています。

- (1)物や活動の要求（欲しい物を手に入れる）
- (2)注目の要求（自分に人の視線を集める）
- (3)逃避の要求（NOという意思表示）
- (4)感覚刺激の要求（その行動自体が、本人にとって、心地よい刺激となっている）
- (5)反射の機能（特定の刺激で起きる行動）



# 5つに分類した行動の機能





# 物や活動の要求

## 物や活動の要求の機能

(Case 1) 三子さんはお菓子が大好きです。ある日、父がスーパーマーケットに買い物に連れて行き、「昨日お菓子を買ったから、今日は買わないよ。」と言ったとたん、店中に聞こえるくらい大声で泣き、床に寝そべて手足をバタバタさせ暴れ出しました。他のお客さんの迷惑になると思い、「1つだけね。」という、すぐに泣き止みお菓子を手に取りました。

### A きっかけ



父と買い物中、  
お菓子は買わないといわれる

### B 行動



子どもが大声でわめきちらす

### C 行動の結果



お菓子を買ってもらえる